

バイブコーディングとは何か AIに指示するだけで社内ツールが 作れる時代の考え方

AIへの自然言語の指示だけでコードを生成する「バイブコーディング」。
中小企業が業務に活かすための考え方と注意点を整理した図解資料です。

この資料の要点

- バイブコーディングは「AIへ言葉で指示してコードを生成する」手法で、2025年2月にAndrej Karpathyが提唱した。
- 勤怠集計・問い合わせフォーム・報告書ひな型など、小規模な社内ツールのプロトタイプに向いている。
- 「作れる」と「安全に運用できる」は別の問題。本番利用にはエンジニアのレビューを必ず挟む。

バイブコーディングとは何か

バイブコーディング (Vibe Coding) とは、コードを直接書くのではなく、AIへ自然言語で指示を出しながらソフトウェアを開発する手法です。2025年2月、OpenAIの共同創業者であるAndrej Karpathyが提唱し、「コードの中身をいちいち理解せず、AIの感覚 (vibe) に乗って動くものを作っていく」というスタイルから名付けられました。

具体的な流れはシンプルです。「受注データをCSVに書き出すフォームを作りたい」「毎週の進捗をまとめるページを作りたい」——こうした要望を日本語 (または英語) でAIに入力すると、AIがコードを生成します。動作を確認し、気になる点があれば「〇〇を修正して」と指示を重ねていく。このサイクルを繰り返すのがバイブコーディングです。

どんな社内ツールに向いているか

- **簡易集計・可視化**：スプレッドシートで管理している数値を、ブラウザで確認できる形に整理する。
- **社内向け入力フォーム**：日報・チェックリスト・申請書などを、紙やメールからWebフォームへ移行する。
- **報告書・議事録のひな型生成**：決まった形式のドキュメントを、入力した情報から自動で組み立てる。
- **小規模な情報管理画面**：取引先リストや在庫状況など、関係者が参照できるシンプルな管理ページ。

共通するのは「社内で完結する」「複雑な認証が不要」「壊れても影響が限定的」という条件です。

実際の進め方

- ① 作りたいものを言葉にする：「何を、誰が、どう使うか」を一段落で書き出す。仕様書は不要。

- ② AIツールに入力する：Claude、ChatGPT、Cursorなど、用途に合ったツールに要望を入力する。
- ③ 動作を確認する：生成されたコードを実際に動かし、意図通りか確認する。
- ④ 言葉で修正を指示する：「○○の項目を追加して」「エラーが出るので直して」と日本語で修正を依頼する。
- ⑤ レビューを経て運用に乗せる：本番利用前に、エンジニアがコードを確認し品質と安全性を担保する。

気をつけるべきこと

バイブコーディングが持つ最大のリスクは「動いているように見えるが、内部の品質は保証されない」点です。特に次の3点は慎重に扱う必要があります。

- **セキュリティ**：個人情報・認証・外部サービスへの接続が絡む処理は、専門家のレビューなしに本番で動かすべきではありません。
- **保守性**：AIが生成したコードは構造が整理されていないことがあり、後から変更・拡張しにくい場合があります。
- **動作の正確さ**：数値計算や条件分岐の処理で、意図と異なる動作が紛れ込むことがあります。必ず実データで検証してください。

「作れること」と「安全に運用できること」は、まったく別の問題です。

よくある質問

Q. バイブコーディングとエンジニアへの依頼はどう違いますか？

エンジニアへの依頼は品質と保守性が高い反面、費用と時間がかかります。バイブコーディングは素早くプロトタイプを作れますが、本番利用前にエンジニアによるレビューを挟むことが推奨されます。

Q. プログラミングの知識がなくても使えますか？

簡単な社内ツールのプロトタイプであれば始められます。ただし外部に公開するシステムや個人情報を扱うツールは、エンジニアのレビューなしに本番利用するのは避けるべきです。

Q. どんな社内ツールから試すのが向いていますか？

「社内でしか使わない」「個人情報を扱わない」「壊れても影響が小さい」ツールから試すのがおすすめです。Excelで管理している簡易集計の見える化、社内向けチェックリストフォーム、議事録のひな型生成ツールなどが取り組みやすい例です。

株式会社DnD からのご案内

バイブコーディングで作成したプロトタイプのリビュー・品質改善・運用化支援も承っています。

「まず作ってみたものを、ちゃんと動く形にしたい」というご相談もお気軽にどうぞ。ご相談・お見積りは無料です。

お問い合わせ：<https://dnd-inc.jp/contact.html>

© 2026 DnD Inc. — Distill n Develop.